

外国語

外国語科における改訂のポイント

1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について

学習指導要領では、「目的や場面、状況などに応じて情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考、判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されています。

「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたって生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場면을計画的に設けることなどが考えられる。

「深い学び」の視点

「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを話したり書いたりする中で、外国語教育における「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）より抜粋

2 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」について

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられています。

3 外国語科における「言語活動」について

外国語科における「言語活動」とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」などの活動を意味します。言語材料について理解したり練習したりする活動は「指導」とされ「言語活動」とは区別されています。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用されます。練習は、言語活動を成立させるために重要ですが、練習で終わることのないように留意する必要があります。

外国語科における学習評価のポイント

1 「外国語科」の目標と「英語」の目標について

<p>「外国語科」の目標 【教科目標】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。</p>	
(1) 知識及び技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 学びに向かう力、人間性等	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



<p>「英語」の目標 【「英語」の目標＝領域別目標】 英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。</p>				
聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
ア はっきりと話されれば、日常的话题について、必要な・・・	ア 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたもの・・・	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて・・・	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて・・・	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて・・・

2 外国語科における観点別評価の考え方について

1に示すように、「教科目標」及び「英語」の目標＝領域別目標を踏まえ、「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準を作成します。

	聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
知識・技能					
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度					

3 「知識・技能」の評価

生徒が、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけているかどうかを評価する観点です。

4 「思考・判断・表現」の評価

生徒が、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるかどうかを評価する観点です。またそのためには、「外国語の背景にある文化に対する理解」や、「聞き手、読み手、話し手、書き手への配慮」が必要です。

5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

生徒が、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する観点です。本観点の評価場面は、基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価し、本観点のみ取り出しでの評価は行いません。